



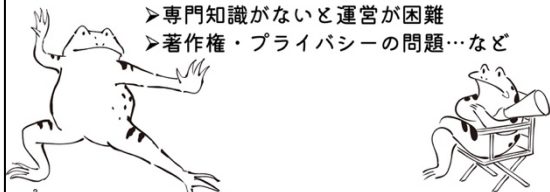
**東濃の地芝居等文化資源記録保存プロジェクト  
2021年活動成果**

柳谷啓子 (人文学部コミュニケーション学科 教授)  
安永知加子 (国際人間学研究科言語文化専攻 2年)  
荒川杏葉 (人文学部コミュニケーション学科 4年)

**目的と背景**

🐸 伝統芸能を地域の記憶として保存・継承したい

- しかし、よくあるアーカイブの問題点が……
  - 資金が続かず業者依存ができない
  - 専門知識がないと運営が困難
  - 著作権・プライバシーの問題…など



**目的と活動**

🐸 そこで、実演者・地域住民・保存会等、撮影・編集・デジタル化・メタデータ付与の専門的知識がない素人でも、蓄積・維持・活用できるデジタルアーカイブを考案、制作を目指す

🐸 2021年度の活動：

- 飯地五毛座歌舞伎関連映像・資料収集
- 飯地五毛座芝居稽古の記録映像撮影
- 中村いてう氏「歌舞伎体験講座」撮影
- 三郷小歌舞伎クラブ稽古・発表会撮影
- 上記稽古風景を恵那CATVで放映


**媒体の収集**

🐸 五毛座歌舞伎保存会を通じて、飯地全戸にチラシを配布

🐸 収集した媒体はデジタル化後に返却

🐸 収集対象  
五毛座歌舞伎にまつわるもの  
(写真/動画/音声/資料など)

🐸 現時点で映像は合計167点のデジタル化を完了



**収集映像の記録簿**

番号	収録内容	収録場所	収録日時	収録者	備考
1	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
2	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
3	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
4	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
5	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
6	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
7	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
8	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
9	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
10	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
11	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
12	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
13	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
14	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
15	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
16	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
17	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
18	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
19	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
20	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
21	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
22	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
23	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
24	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
25	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
26	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
27	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
28	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
29	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...
30	飯地五毛座歌舞伎保存会 創立50周年記念大会	飯地五毛座	2021.11.14	柳谷啓子	...

手書きのラベル・旧字体  
→ 解説が難しいものも  
歌舞伎に関係ないものも  
(親戚の結婚式記録など)

**媒体の収集**

🐸 書き込みのある台本など → 上演回/時期による比較

🐸 稽古風景の映像や画像 → 過程や文化風俗の記録

🐸 広報物 (ポスター・興行チラシ) → 宣伝媒体やデザインの遷移

🐸 芝居小屋図面・興行許可証など → 時代背景の記録



**ドキュメンタリーの制作**

🐸 歌舞伎役者中村いてう氏指導による「歌舞伎体験講座」(恵那市文化振興会・市教育委員会主催)の記録



宮盛座での指導風景  
子どもの部と大人の部

中村いてう  
「歌舞伎体験講座」  
～空後の所作と立ち回り～  
令和3年 6月26日(土)  
19時00分～19時50分  
入場料 1,500円～1,800円  
会場 宮盛座  
主催 恵那市文化振興会  
協賛 恵那市教育委員会  
後援 恵那市立三郷小学校  
制作 柳谷啓子

**ドキュメンタリーの制作**

🐸 中村いてう氏指導による恵那市立三郷小学校歌舞伎クラブの白浪五人男稽古風景を撮影・編集、CATVに提供。発表会当日も撮影、遠隔講習会に活用



24分の映像ドキュメンタリー

えなっコチャンネル(アマックスコム)「ちょっとHOTタイム」2021.12.12放送

## 東濃地方の地芝居等文化資源記録保存プロジェクト（学生の部屋）

### 自由懇談

永田典子（中部大学人文学部日本語日本文化学科教授）：荒川さん、どうも参加していただきありがとうございます。

荒川杏菜（中部大学人文学部コミュニケーション学科4年）：はい、ありがとうございます。

永田：三郷小学校で、いろいろインタビューされたのは、あなたでしたか。

荒川：そうです。

永田：iPad でいろいろメモされていたでしょう。

荒川：メモしていました。先生のほうに、メールさせていただきます。

永田：はい、よろしくお願ひします。それを今回の報告書に、使わせていただきます。荒川さんからの提供ということで。私たちは、今、恵那で地芝居を記録しているということで荒川さんもそれに携わってもらっているわけですが、そういう経験から、何かこういうふうにしたらいいというようなご提言はありますか。

荒川：そうですね。私卒業研究で、恵那の地歌舞伎を取り上させていただきまして。私が飯地町の地歌舞伎保存会の方々から収集した映像のデータや、あと、台本のデータなどを後世に残していくためにアーカイブしていく、アーカイブサイトの提案を卒業研究でさせていただきました。

永田：論文読ませていただいていたいいですか。

荒川：それは大丈夫です。

永田：荒川さんの論文を読ませていただくということでよろしいですか。

柳谷啓子（中部大学人文学部コミュニケーション学科教授）：はい。もちろん。

永田：アーカイブのことに関係して、何かご提言をということで、なんか既に論文に書いたということなので。

荒川：そうです。実際にデジタルアーカイブを作ったりとかはできないのですが、デザインであったり、必要な機能、メタデータの部分に関して、論文で提案をさせていただいています。

永田：作業の面ではどうでしたか。やはり、その場で聞き取り調査をするよりは、改めてゆっくり聞けるような場を設けたほうが、いいでしょうかね。

荒川：そうですね。場としては、例えば、今回取材した、松本団女師匠などは、結構重要な人物として後日時間を取って長く時間をいただけると、やはりインタビューの質が上がると思うので、できるものなら時間をかけたほうがいいと思います。

永田：今回、両方できたからよかったですね。

荒川：そうですね。ただ、やはり市民の方、例えば飯地町の保存会の方々にお話を伺うという点でいうと、別に時間を取っていただくというよりも、皆さんいらっしゃる場でお聞きしたほうが、雰囲気も分かると思いますか、雰囲気というものも記録することができていいという面もあると思います。

永田：先ほどの恵那の吉村さんのお話では、やはり後継者の育成ということを非常に重視されている。そうすると、三郷小学校のように、小学校のクラブ活動でやっていくというのは、非常に有効だと思うのですが、子どもたちの反応は、どういうふうに思いましたか。あそこでもいろいろとインタビューしていましたが。

荒川：子どもたちの印象としては、歌舞伎をやっているということに対して恥ずかしさを持っているとかいうところが全然なくて、むしろ、ちょっと誇りを持ってやっているなど感じました。ただ、三郷小学校の場合、地域の歌舞伎保存会がないという状況があって、子どもたちも、今後も歌舞伎をやっていきたいですかという質問に対して、学校以外の場に、他地域では歌舞伎保存会というものがあるということ自体を知らないような感じでした。

永田：そうですね。

荒川：ですから、そこを知っていたら、うまく歌舞伎保存会に若い子どもたちをつないでいける可能性はあると思いました。そこが、すぐもったいないなと思って。

永田：そうですね、お孫さんを見に来られていたおじいちゃんがいらっしゃいましたが、おじいちゃん自身は、歌舞伎の経験がないということだったので、孫の活躍を見にきたいということでしょうね。地域の経験者の子どもなり、孫なりが、そういうふうなところでつながっていくといいですよ。

荒川：そうですね。私の地元で、父が和太鼓の保存会の会長をしております。三河のほうに実家があるのですが。

永田：三河のどちら。

荒川：西尾市の海に近い一色町です。

永田：大提灯ですね。

荒川：そうですね、大提灯がある、あのあたりは和太鼓が結構盛んなのですが、地元のほうで父が保存会の会長をしています。私も、本当に小さいころから父に連れられて知らぬ間に和太鼓に参加していたという経験があります。やはり、参加している人の子どもなどから参加して行って、さらにその子が友達を誘って、その友達が親子で参加してくれたり、だんだん若い人も集まっていったり、といった具合です。私が参加していた頃は、小学生が普通に15人ぐらいいて、結構小さい子も多くて、中学生、高校生、社会人の20代とかもちらほりました。そういうふうに関係からだと、小学生などは参加しやすいのかなとは思っています。

永田：地域にどれだけ浸透しているかというようなこともありますね。やはり学校教育の中だけでやっていると、子どもはそこだけの世界で終わってしまうということがあると思うのです。今回、取材されてケーブルテレビに出ましたよね、子どもたち。その反応って、何か聞いていますか。

荒川：テレビに出た反応は特に。そんなにすごいことだと言っていたということはないです。

永田：あれがひとつのきっかけになって、より誇りを持って、自慢してやっていってくれると、いろいろな小学校で、取材をしていくというのも有効かも分かりませんね。

荒川：そうですね、それは確かにそうかもしれないです。

永田：今の子って、あまり恥ずかしがらないわね。

荒川：そうですね、

永田：川村さん。何かご意見、ご感想ありますでしょうか。

川村真也（中部大学国際ESD・SDGsセンター研究員）：僕は愛知県へ来て4年ぐらいなのですが、東濃地域で地歌舞伎が昔から脈々と受け継がれていて、劇場がたくさんあって、また存続しているという事実に大変驚いたんですよ。11月に、ちょっと加子母に行くことがあって。

永田：行かれましたか、あの寒い時期に。

川村：はい、プロジェクトで寒いときに行ったのです。そのときに加子母の明治座へ行ったのですが、そこに案内してくれた方が、やはり、中学生か小学生のときに、舞台に立って、いろいろ役者さんと一緒に歌った思い出なんかを語ってくれたのです。そのような形で地域の子どもをいかに巻き込んで、歌舞伎というものに興味を持ってもらうかという事は、持続可能を考える上では、大変重要なのではないかと感じました。

永田：そうですね。幼いときの、そういう経験って、やっぱり重要ですよ。

川村：ええ。山車祭なんかも同じだと思うのですが。地歌舞伎も、そういう部分がとても大事なのではないかと思います。それで、ちなみに東濃地域では、そういう形でたくさん劇場が存続していて、歌舞伎が定期的に上演されていると思うのですが、東濃地域の中での歌舞伎場とか、歌舞伎に関わる人たちのネットワークとかいうものは、盛んに交流は行われていたりするのでしょうか。そのあたりは卒論ではどうでしたか。

永田：荒川さん、分かりますか。

荒川：私は、恵那の飯地の保存会の方のデータを今回対象としてしまったので、東濃地方全体という、多分、私よりも永田先生や柳谷先生のほうが詳しいかと思えます。

柳谷：基本的に、恵那市伝統芸能大会で、保存会同士の付き合いがあるということと、それから、このコロナ禍で救済措置的に行われた、ぎふ清流文化プラザでの「清流の国ぎふ地歌舞伎勢揃い公演」で各保存会が順番に上演を行ったことで繋がったところがあるのではないかと思います。時期によっては無観客上演でしたが、上演記録の映像は全て YouTube 上で公開されました。結構、オンラインだったからこそそのつながりというのもあったというふうに聞いています。あとは、それぞれのつながりってあまりないような気がします。お師匠さんの関係とかで、ちょっと難しい問題がいろいろあるのですよね、きっと、永田先生。

永田：はい。それと、開催日が近いと、練習で他地域の保存会の公演には行けないとか、意外と東濃と一括りにしても、地域的には随分広くて互いに離れていますものね、距離的に。

川村：そうですね。

柳谷：そうですね。大体、うちとお隣の祭はいつも同じ時期だからあっちの祭には行ったことがない。何十年住んでいるけど一回も行ったことがないとか、それと同じ現象が起きるみたいではありますね。

永田：そういうことがあるかも分かりませんから、今回のように、YouTube なりに配信されたのが見られるのはよかったかも分かりません。

柳谷：画期的だと思います。

永田：そうですね。

柳谷：ただ、最初に五毛座の保存会から預かってきたビデオテープの中には、串原村の文化祭での串原歌舞伎の公演のものがありましたね。

永田：入っていました。

柳谷：定期公演のものがたくさん入っていました。

永田：そうですね、地元よりは、どこかに見に行ったところの記録をしておくということかもしれませんね。

柳谷：そうなのかもしれないですね。

川村：そうですね、デジタルコンテンツで残して、その地域以外の人たちに情報発信するという事は、僕もすごく大事だなと思っていました。僕の趣味の一つにオペラ鑑賞というのがあるのですが。

柳谷：それはまた高尚なご趣味で。

川村：高尚かどうかは分かりませんが、ニューヨークのメトロポリタン歌劇場が盛んに、オペラを世界に発信しているのですよね。それで、メリットとしては、日本で上映しないような、とてもマニアックなオペラも見られたりするのです。例を挙げると、フィリップ・グラスの『サチャグラハ』とか、『アクナーテン』とか、現代音楽で、作曲者も存命しているのですが、とてもマニアックなオペラで。あと、ニューヨークが進んでいるなど思うのは、僕よりも若い作曲家の最新のオペラなんかも積極的に取り上げて、それを世界に発信しているのです。ですから、芸術をコンテンツ化する作業は、歌舞伎に地域の人たちが関心を寄せて、歌舞伎と出会うきっかけになったりするのにも役立つと思いますし、恵那という地域を、日本全体ないしは、日本文化に関心のある世界の人たち全体に向けて、発信するというこもつながると思いますので、動画コンテンツというものを、今後もう少し伸ばし、地域全体でもう少しつながりを持って、東濃地域として何かまとまりのあるコンテンツの発信のようなものも、今後必要なのかなというふうに考えています。

柳谷：岐阜県は結構やっているのですよね。岐阜県として、外国人向けの地歌舞伎パンフレットとか、外国人向けの歌舞伎鑑賞ツアー、そういうものを積極的に募集している。この間、別のSDGs絵本プロジェクトで地歌舞伎実践者の方に読み聞かせの講師をお願いしたのですが、その方なんかは、そうしたツアーのコンダクターとして、外国人の方々を案内しているとおっしゃっていました。ただ、あまり近い隣というのは、もしかすると、ちょっとしたライバル意識とかがあったりする可能性はあるかなという感じはありますね。

永田：インバウンドのことも重要ではありますが、意外と春日井の人は東濃の地芝居を知らないのではないかとことがあります。地芝居というのは。内津峠を越えて、すぐのところにあるような文化だということに、あまり触れる機会がないということもあって。せっかく中部大学がこのように東濃に関わっているのだったら、東濃を今度は春日井なり名古屋に紹介するようなことをしていくといいのではないかと思います。

柳谷：そうですね。

永田：蓑島さん、なにかご意見ありますか。

柳谷：恵那ネイティブとしては。

蓑島智子（中部大学国際・地域推進部地域連携課長）：いつもお世話になっています。東濃を春日井などにご紹介いただけるというのは、すごくいいと思いますし、恵那市民であっても、なかなか地元のそういう文化については、興味を持たないと知らない人も多い気がします。

永田：そうですね。

蓑島：こんなに素晴らしい文化が地元にはあるのだということを恵那市民自身が知って、それらに参加したり、発信したりすることに繋がるといいですね。先生がたや学生さんのこうした活動が見えることによって、市民に刺激を与えていただいて、モチベーションを高められるのではないかと、恵那市民としても感じています。ありがとうございます。

永田：名古屋の知り合いが、よく岩村に行くことがあるのです。

柳谷：そうですか。

永田：お酒目当てに行くというのです。

柳谷：「女城主」ね。

川村：私も行ったことがあるのですが、大変楽しいですね。

柳谷：そうですね、私も岩村には四季折々に行きます。

永田：だから、日帰りで十分行き来できるところの人たちが、割と頻繁に来てくれるような、そういう魅力を発信できたらいいかなと思うのです。それこそ、明治村や、リトルワールドに行く、民俗衣装を着たりできるというように。だから、先ほどお話がありました歌舞伎のお化粧なり、衣装なりを簡単に着て「映える」写真が撮れるような、そういうのもあると、愛知県ほうからも県境を越えて来るのではないかなと思うのです。

柳谷：そうですね。

川村：加子母の明治座は、衣装を自由に着て、写真を撮れるようでした。

永田：そうですね。

川村：今流行りの、鬼滅の刃の炭治郎。

永田：そうですね。写真館行けばありますよ。あれを着て子どもの記念撮影をする。

柳谷：市松模様のあれを着たがるのですよね、子どもは。

永田：割と大正ロマン的なところが、今アニメでもいろいろとあるものですから、若い人は、古いものというのをそんなに毛嫌いしているわけではないですね。割と興味を持っているところがあると思うのですね。

柳谷：Z世代の特徴として、レトロを好むという点があるので、あちこちで最近レトロブームで、昔のものをリバイバルしてやっていますよね。例えば、そういう流れにうまく乗せれば、地歌舞伎などに興味を持つ学生もいると思いますね。

永田：どこかの保存会の方に相談して、大学でワークショップやってもいいかなと思っています。うちの学科でやってもいいかなというのもあるのですが、人文学部でやってもいいと思いますし。協定を結んでいる東濃の各市と記念行事を行うという件は、どうなのでしょう、蓑島さん。

蓑島：地域連携センターとしても、そのようなことを行おうという方針は出ているのですが、コロナ禍でなかなか具体的な計画に至っていないのが現状です。

永田：一市ごとに毎月なにかやるとか。

蓑島：やってもいいですね。そういった地芝居みたいなものとか。

永田：食べ物でもいいですし。

蓑島：そうですね。五平餅をキャンパスに持ってきてもらって、いろいろな五平餅を楽しんでもらうとか。

柳谷：それ、いいじゃないですか。

永田：楽しい。

蓑島：学内で楽しんでもらえたら、恵那市の方もちょっといいねとか、おっしゃってくださいたりもして。

永田：移動車ってあるのでしょうかね。

蓑島：移動車はあると以前聞いたことはあります。ところで、柳谷先生もご存じだと思うのですが、ここ数日の話で、JTBさんから、中学生向けに旅行のツアーの企画で大学生に協力し

てもらえないかというお話があって、例えば、中部大学のキャンパスツアーも含めながら近隣の町を案内するというようなことができないかと。京都や、東京などの大学もそのような企画をしているということです。JTB とコラボして、東濃の地歌舞伎なども入れたツアーを学生さんが考えると楽しそうだなと。

柳谷：そうですね。あの件は、私も地歌舞伎にいいなと思って、詳しいお話を伺おうと思っているのですが、中部大学を通り道にしないといけないところが、ちょっと狭まるかなという感じはありますね。せっかくだから、オープンキャンパスばりに学内案内もして、それとセットでというのは、いい考えなのですが。京都などでは、どこの大学も観光地に近いわけなので、すごくやりやすいですよ。サンプルで見せていただいた企画では、立命館大学とか、自分のキャンパスの隣に名所があったりします。だから、セットでできるけれど、春日井市の中部大学とセットでというと、どこになるのですかねという感じで。なかなか難しいものがあるなど感じます。

蓑島：ここを拠点に、東濃に連れて行くとか。

柳谷：そうですね。東濃だったら、1時間でいくわけだから大丈夫ですかね。

永田：そうですね、そういうのも面白いですよ、大学生が企画するツアー。やはり若い人の視線で、いろいろやってみるといいのいいのかも分かりませんよね。

( ) 内=編集者の追記